

# 地域自治会活動一五年の想い

JR東海ユニオンの梅村佐斗示さん

京都から新快速で二二分、JR琵琶湖線南草津駅の周辺には高層マンションが建ち並んでいた。滋賀県草津市「南部新都心構想」の一環として、新駅「南草津」が開業したのは一九九四年である。

梅村佐斗示さん（五八歳。JR東海ユニオン関西地本副委員長）のお住まいは、駅から歩いて五分ほどの閑静な住宅街にあった。きょう（七月一日）は、矢倉町内会自治会連合会の恒例行事「納涼祭」の第一打ち合わせ会があるというので、取材させてもらうことにした。

場所は矢倉町会館（町内会が自前資金で建設した鉄筋二階建て）の二階広間。この日は参議院選挙の投票日で、一階は投票所となっていた。

「今年の納涼祭は八月六日、予備日は七日。役割分担は一覧表のとおり」「新しく和太鼓が出演するが、雨に備えて樽の上にテントを張る必要はないか」「津軽三味線も濡れたら困るだろう」「テント購入には一〇万円ほどかかる」「会長に相談してみる」「四基もの太鼓を舞台にのせるとなると、樽の基礎部分からやり直しにならないか」「まだ時間がある

ので検討してみよう」

進行役の隣りに坐った梅村さんは好々爺然として若者たちの発言に頷いている。会話のなかに「コウタイプ」という言葉がたびたび出てきた。矢倉町内会には「厚生体育部」という活動があり、梅村さんは永らくその世話役を務めてきた。納涼祭の会場設営は中堅・若手が中心の厚体部の役割のようだ。

町内会加入者は一三〇〇世帯を越え、現在も増えつづけている。最近も駅前建ったワンルームマンションの入居者が全員加入してきた。会員の増加にともない、子ども会、婦人会、祭礼神輿、各種スポーツ大会、文化祭といった町内会主催の行事参加者も増え、いきおい役員や世話役の過重負担となる。だが、ここには新旧の世代交代がうまくいっているようだ。

全国的に会員減少、役員の高齢化に悩む自治会が多いなかで珍しい事例だろう。

厚体部の最大イベントは毎年一〇月に開催される「矢倉学区区民運動会」である。世話役以外に、梅村さんはリレーの

キーマンとして活躍してきた。

運動会の華「町内対抗混合リレー」には一風変わったルールがあつて、小学生二名（四〜六年生、男女を問わない）、男性三名（三人の年齢合計一〇〇歳以上）、女性三名（二〇〇メートル。三人の年齢合計九〇歳以上）となっている。

「わしが五〇代で走ると、あとの二人は二五歳でもええし、もう一人、三〇代の足の早い者がおれば、高校の陸上競技部員をメンバーに入れることもできる」

代表選手を決める各地区の練習会があり、バトンの受け渡しも徹底的に練習するから失敗するような者はいない。競争相手は隣り町の顔馴染みばかりだ、絶対に負けたくない、選手も応援する者もアドレナリンが噴き出す。

五二歳のとき、梅村さんの矢倉二丁目チームが優勝した。これを花道に引退しようとして申し出たが、どうしても引き留められ、翌年も出場した。ところが、先頭でバトンを受けたアンカーの梅村さんが、不覚にも追い抜かれてしまった。

やはり加齢による体力の限界かと落ち込んでみると、若い女性メンバーから

「抜かれて終わるんは寂しいやん。一番で終わろう、優勝して終わろう」と言われた。それではと、翌年もその翌年も挑戦、五五歳で再び優勝し、梅村さんの無事引退が決まった。

五〇歳を過ぎてなお、なぜ若者に伍して元気に走れるのか。近江八幡市で生まれ育った梅村さんは、中学はバレーボール部、高校は陸上部のハンマー投げ選手として活躍していた。もともと強靱な体力を有していたとはいえ、それを持続する日々の鍛錬に感服する。最近ではマスターズ陸上にもエントリーしている。

一九八一年、国鉄大阪電気工事局に入局、電力畑を歩き、現在はJR東海関西支社鳥飼電力所で、新幹線運転用電力設備、大阪車両所の配電・電灯設備の点検保守に従事している。

結婚し、息子さん三人が小学生になったのを機に矢倉町に新居を構えた。以来一五年、地域社会の変容と、町内の人びとの機微をつぶさに見てきた。

「町内会も労働組合も同じですわ。若い者は少しぐらい無茶をやり、失敗したほうがええ。どんどんモノを言い、思いっきり行動するんが、組織の活性化につながるんや」

両者に底通するのは、情報の共有と固い信頼関係だろう。

取材構成・司 次郎

写真提供・矢倉町内会



今年も盛大に行なわれた矢倉町内会の「納涼祭」(8月6日)



梅村さんが55歳のとき優勝した「町内対抗混合リレー」矢倉2丁目のメンバーたち(2013年10月)



梅村佐斗示さん



立木神社の祭礼神輿を担ぐ町内会にみなさん(5月3日)



和気藹々の第1回打ち合わせ会(7月10日)